

景気動向調査 令和5年7月分（令和5年7月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【7月の景況】

7月のDIは、9指標のうち、4指標が好転、4指標が悪化、1指標が変わらずという結果となった。

主要3指標は、悪化もしくは変わらず。先月と比較して、売上高DIが±0で変わらず、収益状況DIが2ポイント悪化、景況感DIも6.5ポイント悪化となっている。

大分県内の状況は、建設業や製造業を中心に人手不足が深刻である。また、非製造業を中心に消費活動の盛り上がりに関する声が見受けられた。

なお、原油や原材料の価格高騰による価格転嫁を受けて、販売価格DIは続伸しており、+41ポイントと高い水準にある。



景況感 DI 値

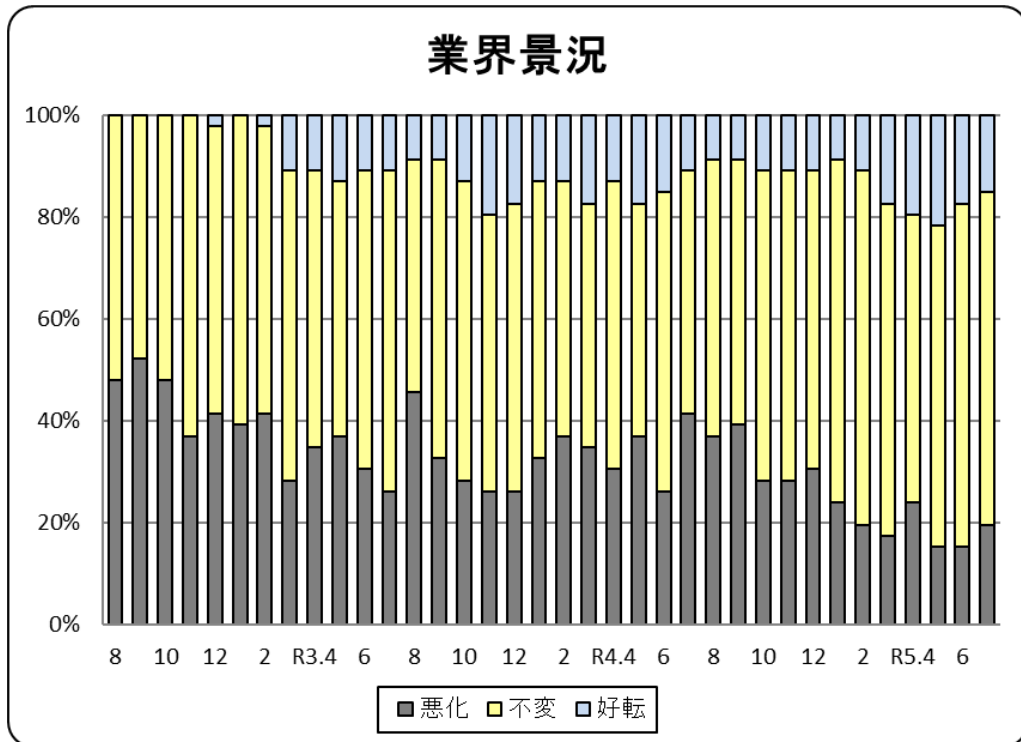


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

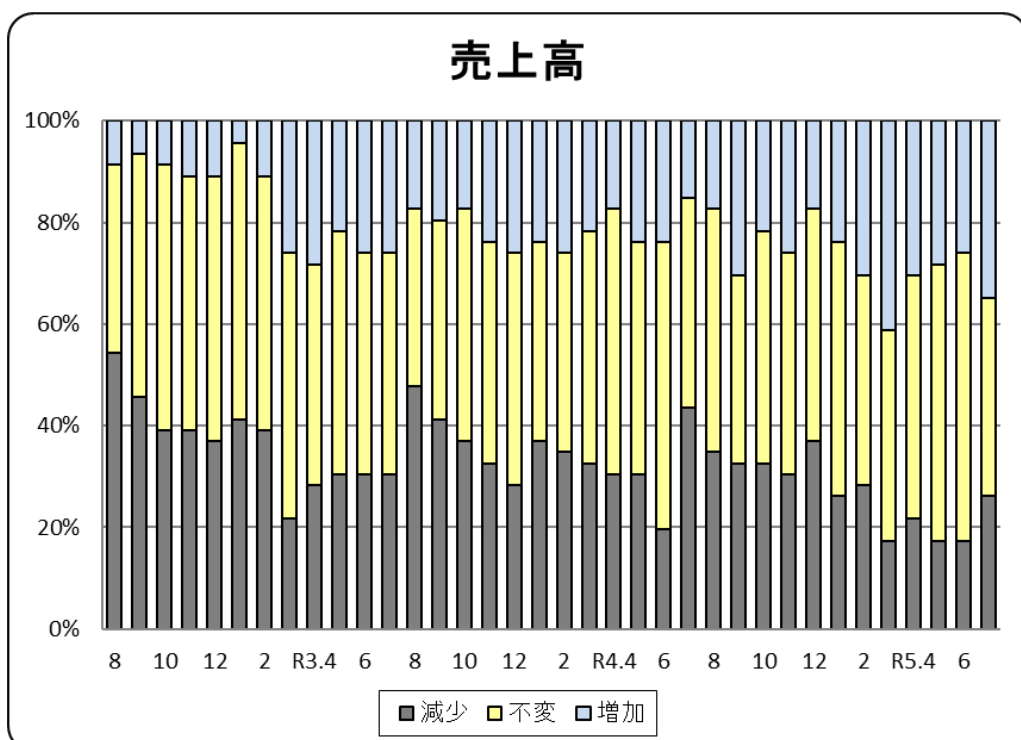
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値は、前月と変わらず+9ポイント。収益状況DI値は、△9ポイントで前月より2ポイント悪化。雇用人員DI値は、△11ポイントで前月より7ポイント減少という結果となった。

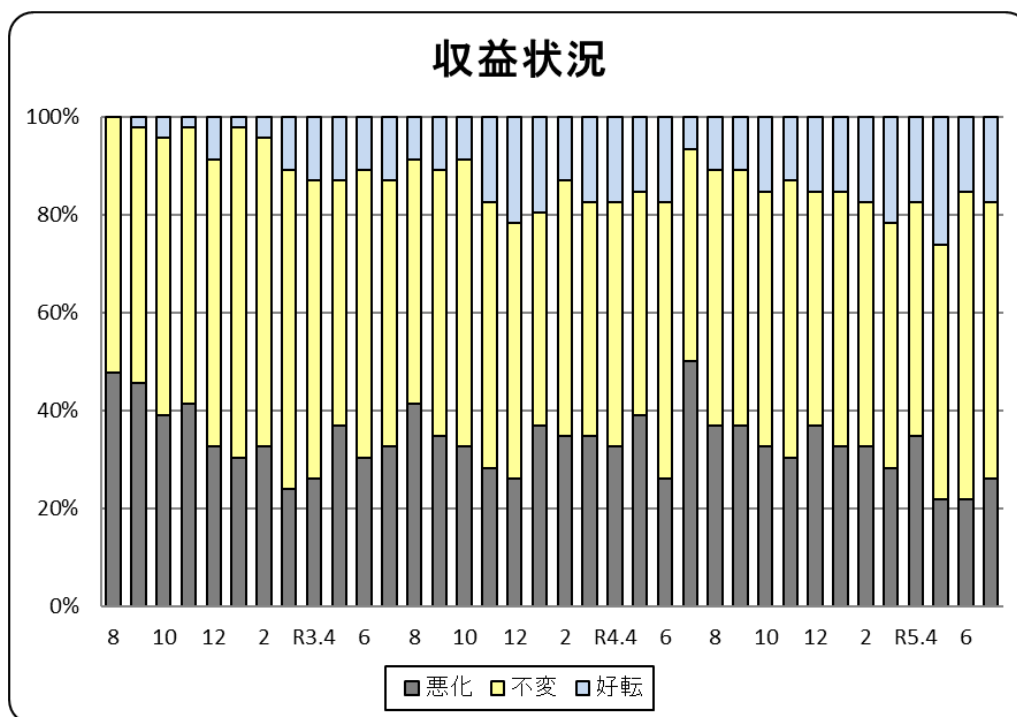
景況の動向は、好転は7組合、悪化は9組合であった。DI値は△4.3ポイントで前月から6.5ポイント悪化。割合で見ると、好転15%、不変65%、悪化20%であった。なお、製造業の景況感DI値は△12ポイント、非製造業の景況感DI値は±0ポイントであった。



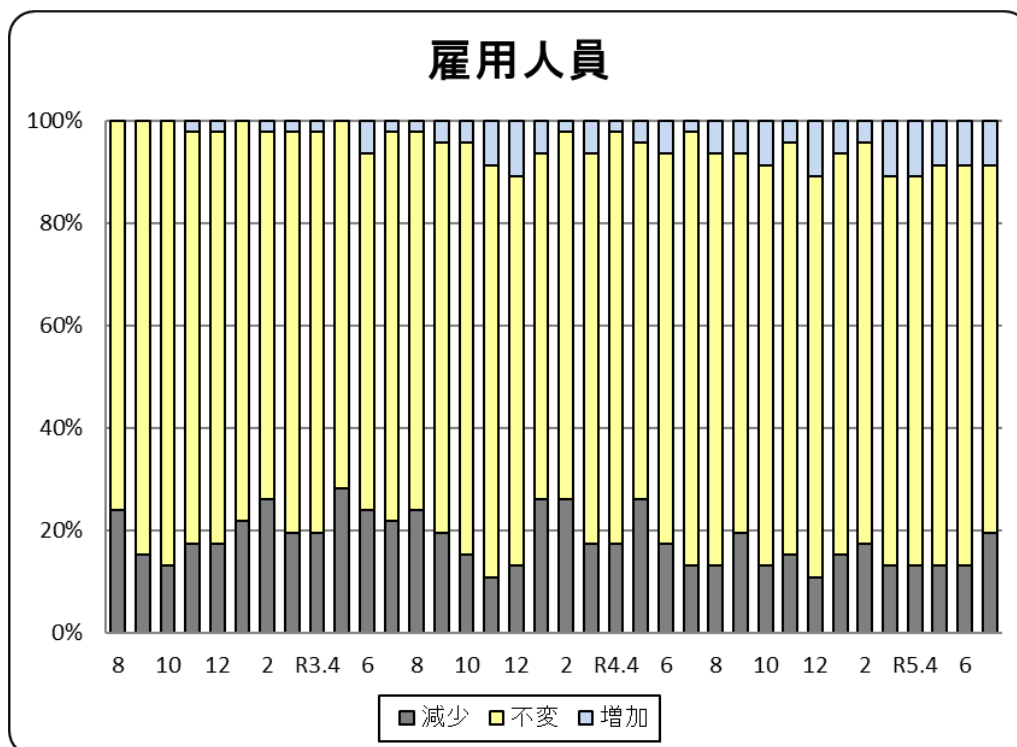
売上高の動向は、増加は16組合、減少は12組合であり、DI値は+9ポイントで前月から変わらず。割合で見ると、増加35%、不変39%、減少26%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は8組合、悪化と回答した組合は12組合であった。DI値は△9ポイントで前月から2ポイント悪化。割合で見ると、好転17%、不変57%、悪化26%であった。



雇用人員の動向は、増加は4組合、減少は9組合であった。DI値は△11ポイントと先月から7ポイント減少。割合で見ると、増加9%、不変72%、減少19%であった。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数－減少・悪化組合数)／調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

